



ART-AID 実行委員会： Basel Project for Japan

“Remembrance of the Future to Come” (来るべき未来への追憶)

www.artaid.jp

会場：スイス国バーゼル市 旧 plug. in (Sankt Alban-Rheinweg 64 4052 Basel, Switzerland)

展示期間：2011年6月11日(土) - 2011年6月29日(水) 開場時間：11AM - 6PM

アートバーゼル期間中(6月15-19日)の開場時間：10AM - 10PM

入場無料 (会場にて震災孤児への寄付金を募ります)

参加アーティスト：ヨーゼフ・ボイス、インゴ・ギュンター、畠山直哉、大巻伸嗣、オノ・ヨーコ

キュレーター：渡辺真也

後援：在日スイス大使館、在スイス日本大使館

オープニングレセプション：2011年6月11日(土) 6 - 8PM

アーティストトーク：2011年6月12日(日) 11AM - 1PM

“The Great East Japan Earthquake: How Art Can Find Its Own Way” (英語のみ)

話し手：インゴ・ギュンター、大巻伸嗣、佐藤晃、渡辺真也

大惨事に直面したとき、アートが果たすべき役割とは何か？ 今年3月11日、未曾有の巨大地震と津波という自然の計り知れない脅威を前に、日本のアーティストやアート関係者の多くは、無力感に苛まれました。そんな中、地震発生から実に9日後、瓦礫の中から救出された16歳の少年は、将来の夢を聞かれてこう答えたのです——「ぼくはアーティストになりたい」。

東日本大震災発生からちょうど3ヶ月後にあたる6月11日より開催する本展覧会「来るべき未来への追憶」は、この大災害をアート作品を通して見つめる試みです。この展示では、私たちの想像力を刺激するアート作品を通じて、現在を来るべき未来という視点から眺めます。未来に思いを馳せる、それはすなわち「希望」を持つことにほかならないのです。未来の視点から現在を「追憶」することによって、私たちは言葉にならないほどの喪失をも、乗り越えることができるのではないのでしょうか。

現実がどんなに厳しいものになろうとも、理想を語るというアートの使命は不変です。未来への想像力を喚起することで、私たちの現在は過去のものとなり、希望を支える記憶へと変容する。そしてその灯りを点すものこそが、アートであり、アートの力なのではないのでしょうか。

畠山直哉：「Zeche Westfalen I/II Ahlen」2003

被災地域である岩手県・陸前高田市出身の畠山直哉は、ドイツの炭坑が爆破される瞬間を捉えた写真シリーズ「Zeche Westfalen I/II Ahlen」(ヴェストファーレン炭鉱 I、II、アーレン) を出品します。

畠山は、「壊される予定の建物があるから写真に撮っておいてくれませんか？」との依頼に、「もうすぐ死ぬ人がいるから肖像を撮っておいてくれませんか？」という依頼に似た響きを感じたといいます。故人を懐かしむためにその人の肖像が必要なように、消えてしまった建築を懐かしむために建築写真が必要とされる。故に、畠山は、「記録」は常に未来からの視線を前提としていていると考えます。

ART AID Committee: Basel Project for Japan

Pinecrest #506, 1-7-3 Hiroo, Shibuya-ku, Tokyo 150-0012, JAPAN



自身の家族をも奪い去った大津波が陸前高田市を襲った後、本作品のもつ意味は完全に変わりました。大震災によって、写真はその本来の役割——「記憶への奉仕」——を再度取り戻したといえます。そして「来るべき未来への追憶」という視点から捉えた際、これらの過去の「記録」はさらなる変化を遂げることでしょう。

大巻伸嗣：「ライン（仮）」新作

大巻伸嗣は、カーペットの上に色鮮やかな岩料で花柄を描き、観客が踏んで壊すことで次第に色が滲んでいき、別の空間へと生まれ変わって行く作品「Echoes」で知られています。本展では、ぴんと張った複数の輪ゴムからなる赤一色の線が、展示空間を2つに分割するという新作「ライン」を発表します。

限界ぎりぎりまで張られ、今にもちぎれんばかりの輪ゴムは、「こちら」と「あちら」を区切る脆い境界線として、絶対的「他者」——震災で亡くなった被害者たち——の存在を想起させます。私たちには今、いったい何が起きているのか？ 「あちら側」には何があるのか？ 震災以来大きく変容した私たちの認識と表現について、大巻は問いかけます。

オノ・ヨーコ：「Wish Tree」

オノが90年代から世界各地で展示している作品「Wish Tree」は、人々が自らの希望や平和への願いを書いた短冊を1本の木に吊るすという、参加型作品です。オノ自身が、幼少の頃、神社でおみくじを木に結びつけたり、七夕で短冊に願い事を書いた経験がもととなっています。

「ひとりで見る夢はただの夢。みんなで見る夢は現実になる」と語るオノ。本作品はバーゼルの地における内省の場となり、参加者の深い共感と願いは、地球の裏側にある被災地へと運ばれていきます。

インゴ・ギュンター：「Thanks a Million」新作

3月11日、東京で震災を経験したドイツ人作家インゴ・ギュンターは、津波の壊滅的被害を受けた東北の海岸線に松林を再生させるプロジェクト、「Thanks a Million」を提案します。

日本の海岸線の象徴的な風景である松林の多くは、農作物を潮風から守るための防風林として、江戸時代に人間の手で作られました。その美しさから白砂青松と讃えられ、多くの日本の歌人たちを虜にしてきた東北地方の松林にあった約100万本の松の木は、残念ながら今回の巨大津波で根こそぎ奪い去られてしまいました。そんな中、陸前高田市の高田松原は、たった一本残り、復興のシンボルとして人々を勇気づけている「奇跡の松」があります。

本プロジェクト「Thanks a Million」では、作家が100万の松の木の種を提供し、そこから生まれた松の木を植えることにより、東北の美しい海岸線を取り戻すとともに、被災地と世界中の人々との永続的な関係性の構築を目指そうと提案します。

ヨーゼフ・ボイス：「1984年6月2日 東京芸術大学での対話集会」

1984年、ボイスが東京芸術大学で開催した対話集会の記録映像を上映します。

ボイスはこの年、自身のプロジェクト「7000本の樫の木」への資金集めを目的に来日、結果的に日本



はこのプロジェクトの最大のスポンサー国の一つとなりました。ボイスは、西武グループによるスポンサーシップの交換条件として、日本での個展を受け入れ、さらに公開対話集会の開催を提案しました。この対話集会では、自身の美術活動の資金作り目的で来日したことを日本の美大生たちに激しく批判されながらも、それは美術活動に関する古典的な問いである、と学生たちに語りかけ、自身の「社会彫刻」についての信念を語ります。

なお、本ビデオの監督は畠山直哉。集会の舞台である東京芸術大学は、インゴ・ギュンターが教鞭を執った大学です。本展では、ボイスによるドイツ語発言を日本語に、日本人学生からの日本語での質問にドイツ語字幕を施した 90 分の特別版を上映いたします。

ART AID: Basel Project for Japan は、賛同ギャラリーからのご協力と展示会場での募金活動によって東日本大震災被災地復興支援を目指す、チャリティアートプロジェクトです。

当プロジェクトにご賛同くださるギャラリーより、アート・42・バーゼルにおける売り上げの 1% を各国赤十字社に日本支援を目的として寄付して頂くとともに、展覧会入場者からの募金を全額、震災孤児を精神的・教育的に支援する NGO 団体あしなが育英会 (<http://www.ashinaga.org/>) に寄付いたします。参加作家および実行委員会メンバーは全員、無償で本プロジェクトにかかわっています。

本展示を含めた ART AID: Basel Project for Japan が、震災によって生まれた無数の記憶を、来るべき未来への追憶とする機会となりますよう、願っています。

渡辺真也

スポンサー :

iaab, Christoph Merian Foundation, TWEAKLAB, Selmoni, Uta und Ulrich Müller-Gierok, Temple University Japan, Josy Kraft E. L. S., McCaffrey Fine Art, Gallery Cocon affiliated with Senzokuike Hospital, Hubnet Express, sushianmoore, Druckerei Dietrich AG, proha-tecwerbetechnik, Swiss Air Cargo, sea

パートナー :

VOLTA, kunstmuseumbasel museum fürgegenwartskunst, Stay Strong! Japan

In support of:

International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies

お問い合わせは pr@artaid.jp へ、または www.artaid.jp をご参照ください。

ART AID Committee: Basel Project for Japan

Pinecrest #506, 1-7-3 Hiroo, Shibuya-ku, Tokyo 150-0012, JAPAN